

第44図 徳城峠越 周辺の遺跡分布図

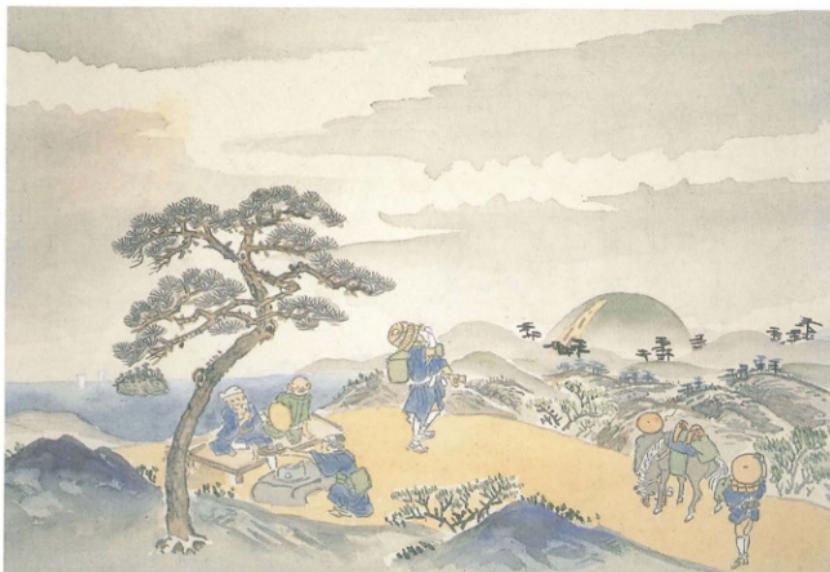
第2節 調査方法と調査区の設定

第1項 調査方法

今回の調査の対象は街道であるため、その全貌をまず地図上で確認することから始めた。なお、この街道は平成8年度に島根県教育委員会が歴史の道調査を実施しており、その時の調査成果も参考にしている。

そして、全長約3.06kmにおよぶ調査範囲を全面発掘調査することは不可能なため、まず全体を3つの区画に分けて、それぞれの各調査地点において数ヶ所のトレンチを設定（トレンチの大きさはその都度決定した。）して発掘調査を行うことにした。

また、街道に関する絵図や古文書等の調査も並行して行った。その結果、明治期に描かれた栗本格斎の『津和野百景』に徳城峠の茶屋が描かれているのが確認出来たが（第45図）、その他の文献資料は殆ど現存していないため調査成果を上げるまでには至らなかった。

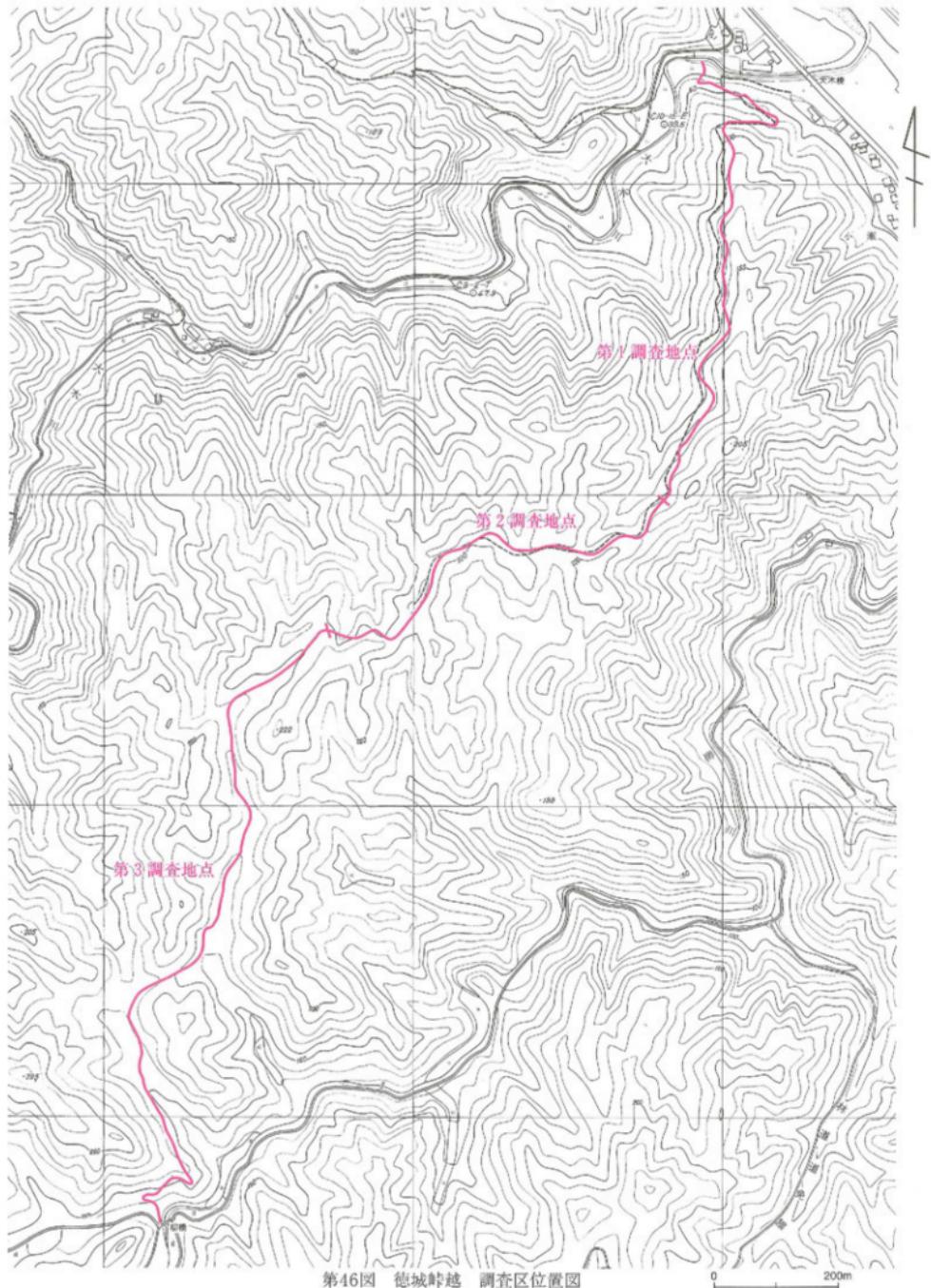


第45図 徳城峠（栗本格斎筆「津和野百景」より）

第2項 調査区の設定

調査区全体が約3.06kmにおよぶため、まず北側から峠の所までの約1.026km区間を第1調査地点、次に頂上付近になる尾根沿いの区間約0.7kmを第2調査地点、そして、尾根の南端から町道との合流までの約1.3km区間を第3調査地点とし、調査地点を3地区設定した。

まず第1調査区は、調査区北端から約9m南下したところに設けた。次の第2調査地点は、尾根の先端部（北側）で茶屋があったとされる場所に設定した。最後に第3調査地点は、尾根の南端部より柳村側の区間であり1箇所のトレンチを設けた。



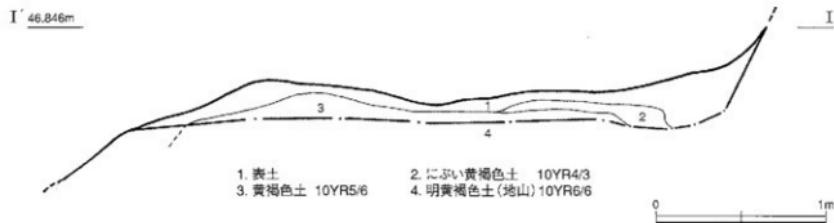
第46図 德城峠越 調査区位置図

第3節 調査の概要

第1項 第1調査地点

1. トレンチ1（第47・49図・図版41）

本トレンチは、調査区北端より約9.6mの地点において、幅1mのトレンチを設定した。この地点の標高は約46mで勾配16%の坂道である。試掘調査の結果、約4mの道幅を作るために、まず地山（岩盤）を掘削し、山際に幅40cmの溝を設けている。本調査地点は地質的に山が頑丈なため、道幅だけを削り、僅か10cmほど盛土し道全体を平坦にしている程度である。特に整備をした形跡もなく当時のまま現在に至っていると考えられた。



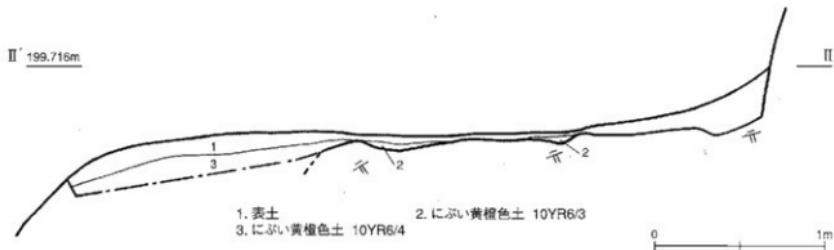
第47図 德城跡越 トレンチ1 土層図

第2項 第2調査地点

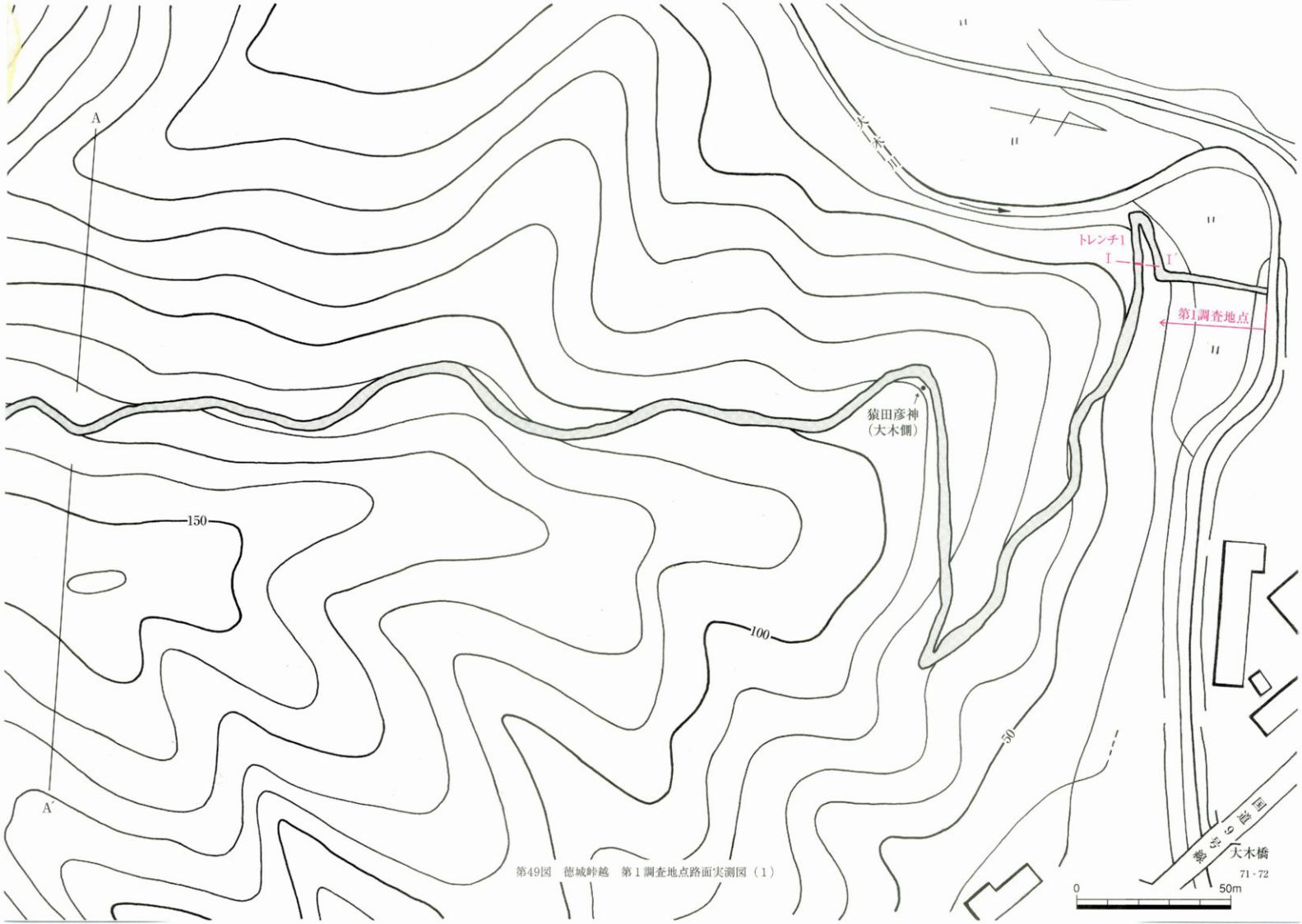
1. トレンチ2（第48・54図・図版42）

本トレンチは、第45図で紹介した茶屋があったと言われている頂上付近に設定した。この場所は、昭和59年指定文化財になった際に建てられた看板がある。その付近が茶屋跡となっており、徳城跡が利用されていた当時は絵図に描かれている風景が見えていたとのことである。しかし、現在は樹木が高くなっているため、景色を確認することはできない。また、絵図から判断しても道の脇で移動可能な棧敷を置いた簡単な茶屋であった可能性が高く、その痕跡を見つけることは困難であった。

試掘調査した結果、トレンチ1と同様に地山をL字状に掘削して3mの道幅を整備している。地山の上面には10cmほど盛土した形跡が確認でき、山側には溝の痕跡も確認することができた。



第48図 徳城跡越 トレンチ2 土層図





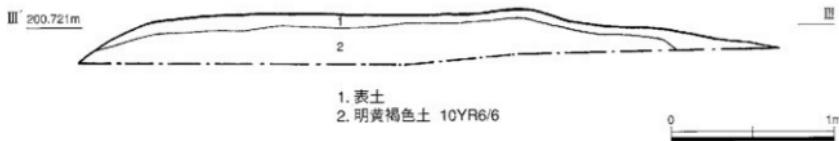
第50図 德城峠越 第1調査地点路面実測図 (2)

0 50m
73-74

2. トレンチ3（第51・54図・図版43）

本トレンチは、トレンチ2より約70m南へ行った所で、ほぼ時の頂上付近に設けた。この地点は、尾根と尾根の接点にあたる所で、少し窪んだ地形である。

そのため、掘削して道を整備するのではなく、幅約3mの台形状に一段高くして道を作っている。そして盛るための土は、地山の土と同じであると思われたため、その前後で掘削して出てきた土を利用しているのではないかと判断した。また、街道が一番高い位置にあたるため特に側溝は設けていない。



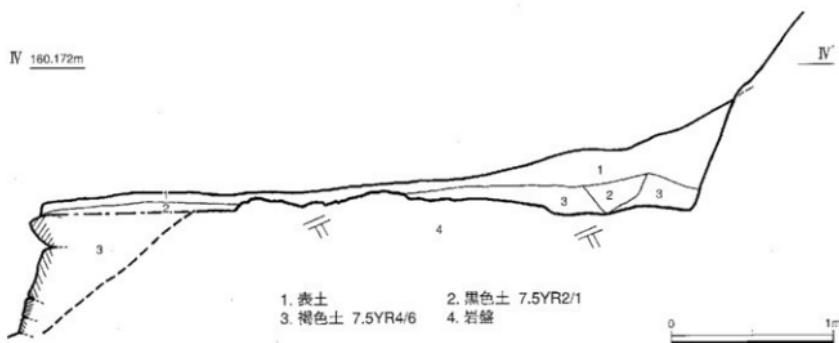
第51図 德城越越 トレンチ3 土層図

第3項 第3調査地点

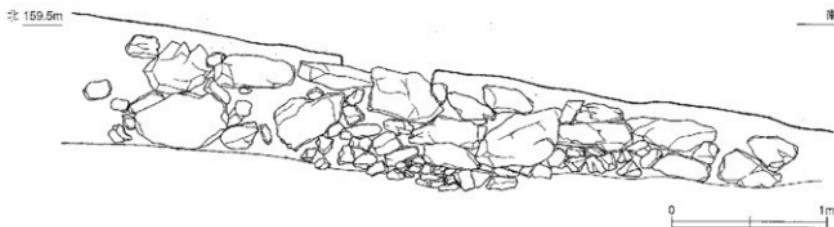
1. トレンチ4（第52・56図・図版44）

本トレンチは、調査区南側（柳村側）から約186mの地点で、勾配9%、標高約159mの所に設定した。試掘調査した結果、他と同様にし字状に削り道を整備している。ただし、この地点においては、非常に固い岩盤であるため道幅すべてを削ることはせず、1.2mほど盛土して谷側に石垣を築いている。そして山側に側溝を設けて、約4mの道幅に整備している。

石垣の高さは約80~40cmを測り、長さは約4m築かれている。また、石垣の材料は岩盤を掘削した時にでてきた石を利用していると思われた。石垣の積み方としては、約10~50cmの石を使用した野面積である。



第52図 德城越越 トレンチ4 土層図



第53図 德城峠越 トレンチ4 石垣立面図

第4節 土質調査

第1項 調査目的・調査内容

1. 調査目的

調査内容は、発掘調査により確認された山陰道について現地調査を行い、当時の山陰道の構築状況を考察するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査内容

- ・ポータブルコーン貫入試験（徳城峠）：1地点（3箇所）

第2項 調査方法

ポータブルコーン貫入量試験・・・JGS 1431-2003に基づく試験方法

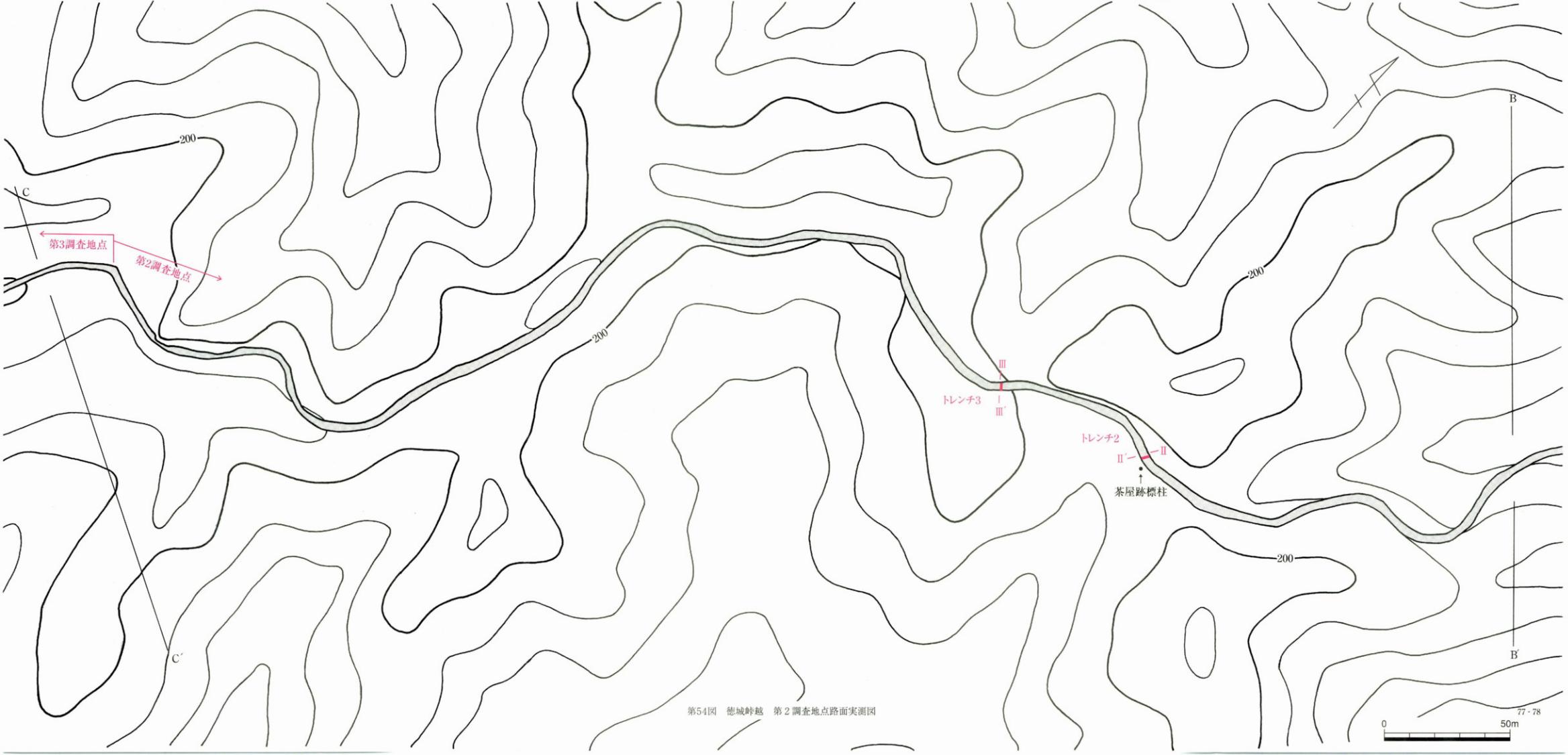
第3項 調査結果・考察

1. 調査結果

ポータブルコーン貫入試験結果を表1に示す。

調査位置	深度	ダイヤルゲージの読み			平均	平均コーン指数值 (KN/m ²)
		川側	中央	山側		
切盛箇所 (徳城峠)	0.00	0	0	0	0	0.0
	0.05	46	35	55	45	321.5
	0.10	63	51	89	67	472.3
	0.15	80	64	100	81	568.2
	0.20	66	110	75	83	581.9
	0.25	80	130	130	113	787.5
	0.30	90	—	—	90	629.9
	0.35	100	—	—	100	698.4
	0.40	130	—	—	130	904.0

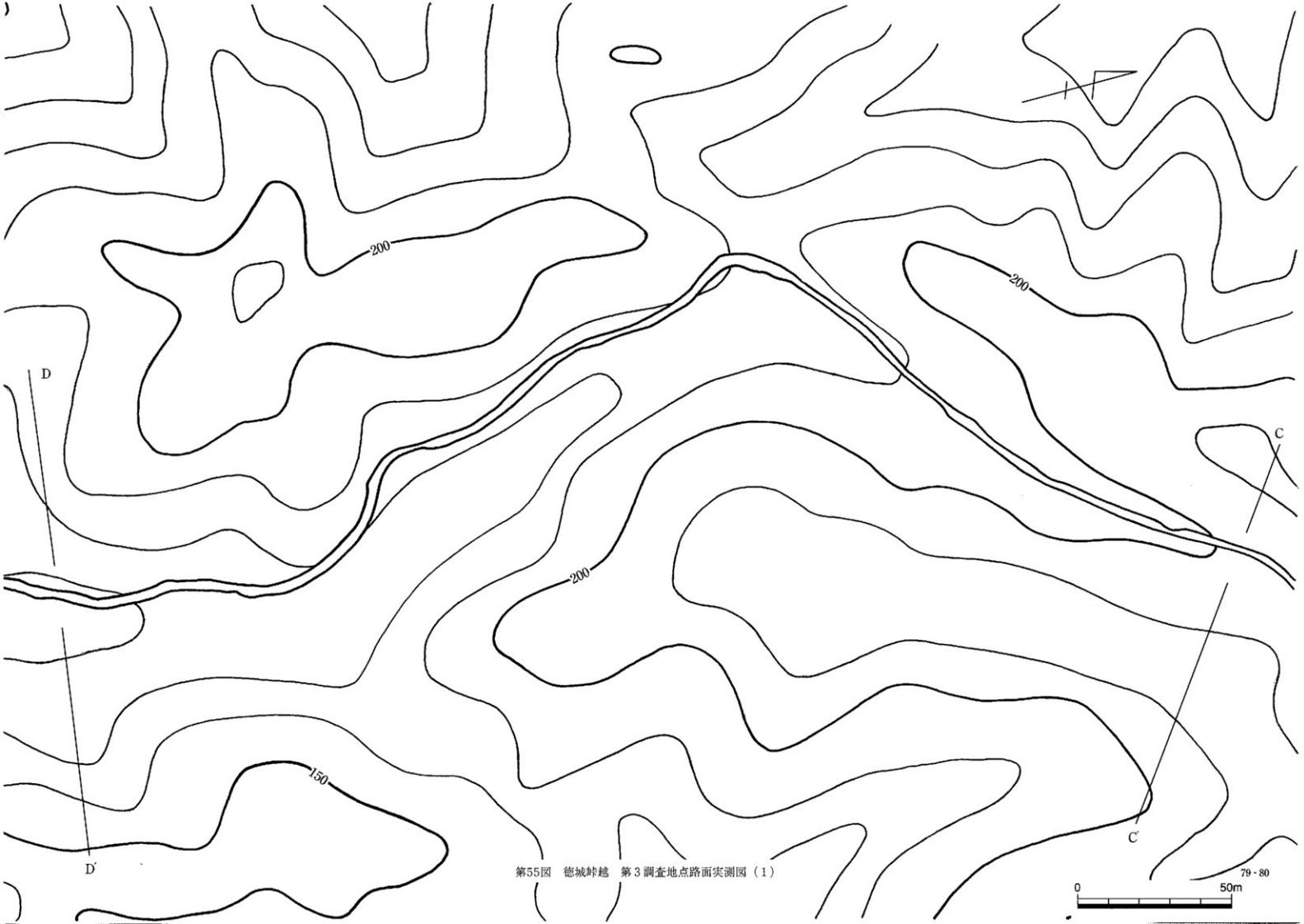
表1 徳城峠越 ポータブルコーン貫入試験結果



第54図 徳城峠越 第2調査地点路面実測図

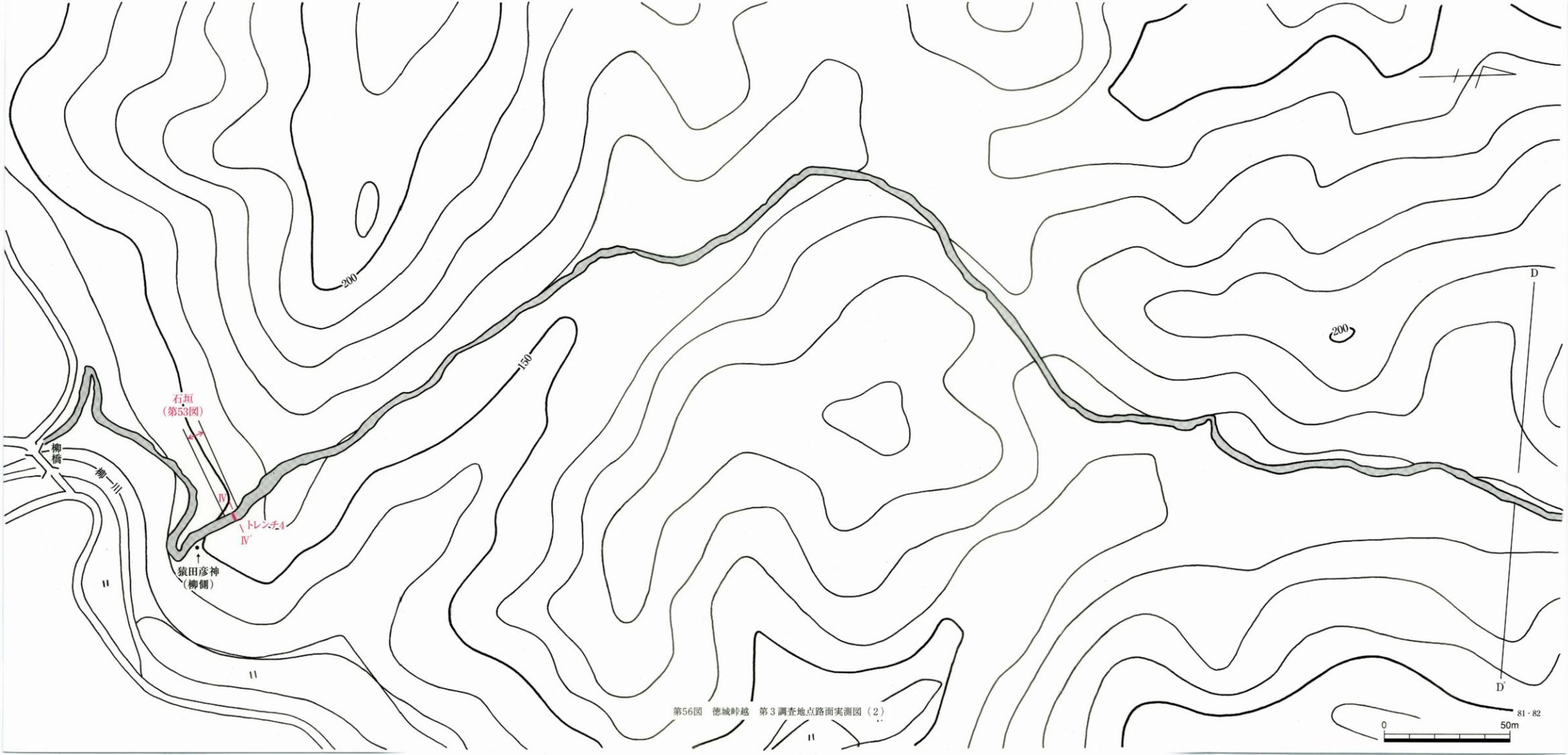
0
50m

77 - 78



第55図 德城峠越 第3調査地点路面実測図（1）

0 50m
79 - 80



4) ポータブルコーン貫入試験

試験結果では、貫入深度は総括で0.10m～0.40mと浅く、路線自体も良く締固まつた状態で、コーン指数値も547.6kN/m²～904.0kN/m²を示す。表5に当てはめても15t級の普通ブルドーザーが走行可能な支持力を有する状態であった。

建設機械の種類	コーン指数 qc kgf/cm ² (kN/cm ²)	建設機械の接地圧 kgf/cm ²
超湿地ブルドーザー	2 以上 (200)	0.15～0.23
湿地ブルドーザー(11t級程度)	3 タ (300)	0.22～0.43
普通ブルドーザー(15t級程度)	5 タ (500)	0.50～0.60
普通ブルドーザー(20t級程度)	7 タ (700)	0.60～1.00
スクレーブドーザ	6 タ (600)	0.41～0.56
被けん引式スクレーバ(小型)	7 タ (700)	1.3～1.4
自走式スクレーバ(小型)	10 タ (1000)	4.0～4.5
ダンプトラック	12 タ (1200)	3.5～5.5

「道路土木施工指針」[社団法人 日本道路協会] P47

表2 建設機械の走行に必要なコーン指数

株大建コンサルタント 藤井 浩人

第4節 まとめ

全体として野坂峠越と同様に約3～4mの道幅の街道を確認することができた。そして、数ヶ所ではあるがトレンチを設定して試掘調査をすることができた。その結果、山をし字状に掘削して街道を整備していることが確認でき、また、この徳城峠越の山は非常に固い岩盤でできているため、野坂峠で見られた石垣や石畳、石敷きといった地盤固めの整備した跡は見られなかった。しかしながら、当時の土木技術を考える上での貴重な資料であることは間違いないと思われた。

この徳城峠は、前章の野坂峠と同じように津和野百景（江戸時代）にも選ばれた場所でもあり、江戸時代の名勝の一つでもあった。絵図を見ると、峠の茶屋からの見晴らしは大変良かったようで、青野山（南側、津和野城下町方面）や日本海（北東側、高島も描かれている）が見える（第45図）。現在は街道沿いの樹木が大きくなり、残念ながら当時の景色をみることは困難であり、また、茶屋があつた場所についても確かなことは分からなかった。

以上のように、本調査区の徳城峠越は地盤が非常に良好なため、新しい時代において整備をした形跡もなく、当時のまま現在に至っていると考えられた。このような街道がどのように整備されてきたかは定かではないが、立地的に条件が良いため整備を街道脇に2ヶ所（調査区北側より約330m地点・調査区南側柳村側より約180m地点）に猿田彦神が奉られており、調査区北側にある猿田彦神は、年号が文化十年と銘があることから、この頃に街道整備が行われた可能性があると考えられた。



野坂峠付近鳥瞰

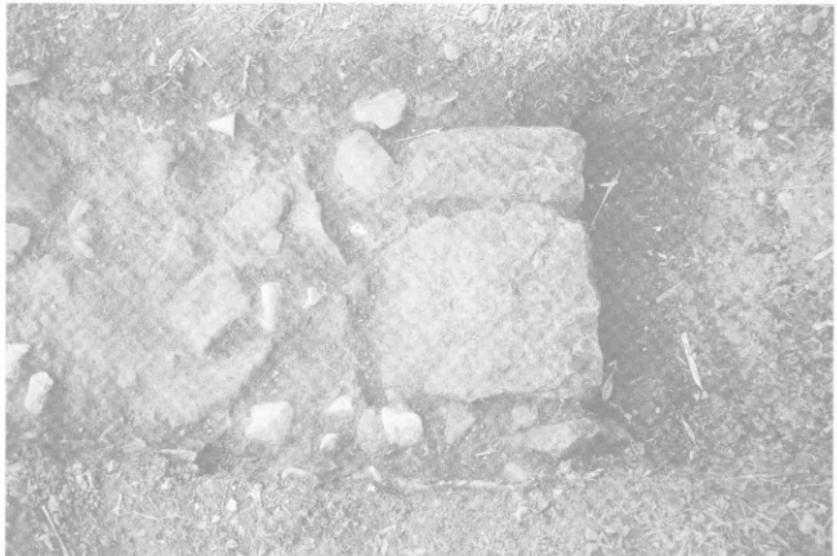
図版2



1. 第1調査地点近景（南より）



2. 口屋跡付近



1. トレンチ1 完掘状況



2. 第1調査区の石垣



1. 第2調査地点北半（調査前・北から）



2. 第2調査地点北半（調査後・北から）



1. 第2調査地点北半（調査前・南から）



2. 第2調査地点北半（調査後・南から）

図版6



1. 第2調査地点北半（調査前・北から）



2. 第2調査地点北半（調査後・北から）



1. 第2調査地点北半（調査前・南から）



2. 第2調査地点北半（調査後・南から）

図版8



1. 第2調査地点南半（調査前・北から）



2. 第2調査地点南半（調査後・北から）

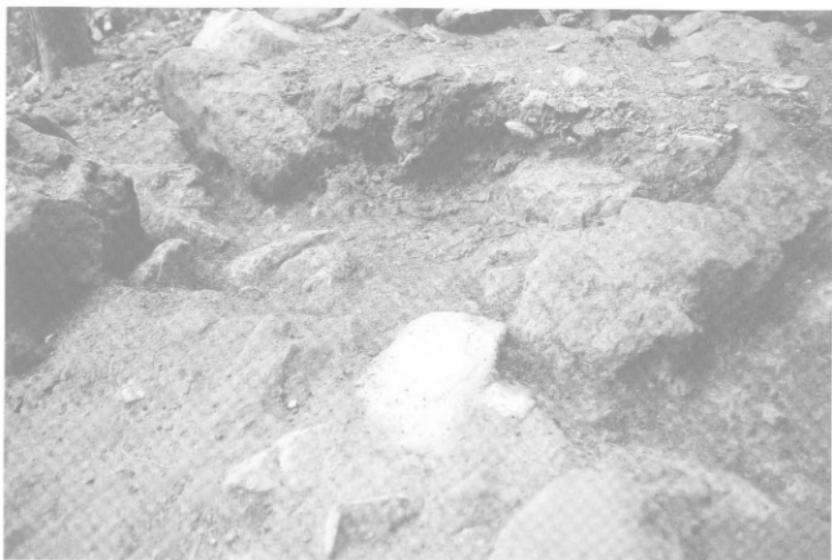


1. 第2調査地点南半（調査前・南から）



2. 第2調査地点南半（調査後・南から）

図版10



1. トレンチ4 土層検出状況1



2. トレンチ4 土層検出状況2



1. トレンチ5 土層検出状況1



2. トレンチ5 土層検出状況2

図版12



1. トレンチ6 完掘状況1（北より）



2. トレンチ6 完掘状況2



1. トレンチ7 土層検出状況1



2. トレンチ7 土層検出状況2



1. トレンチ8 土層検出状況1



2. トレンチ8 土層検出状況2



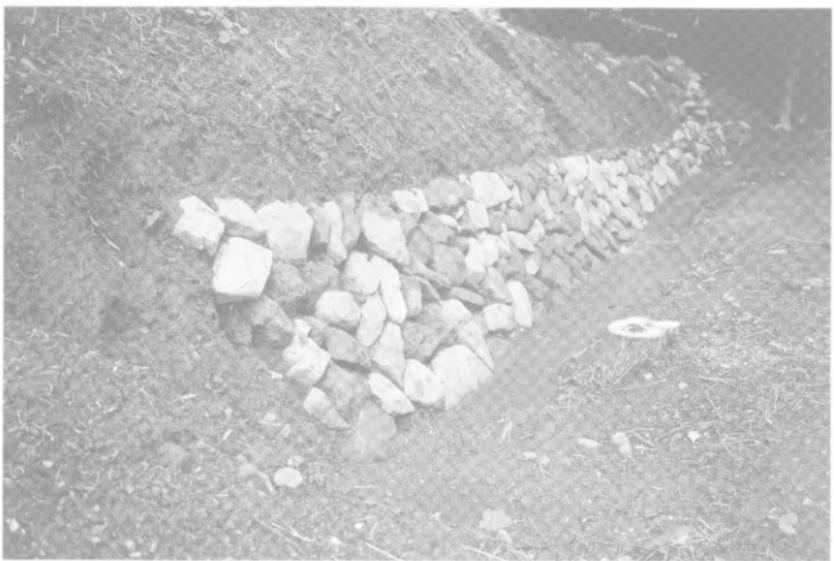
1. トレンチ10 土層検出状況 1



2. トレンチ10 土層検出状況 2



1. 第2調査地点南半 東側石垣検出状況1（北東から）



2. 第2調査地点南半 東側石垣検出状況2（北東から）



1. 第3調査地点北半（調査前・南から）



2. 第3調査地点北半（調査後・南から）



1. 第3調査地点南半（調査前・南から）



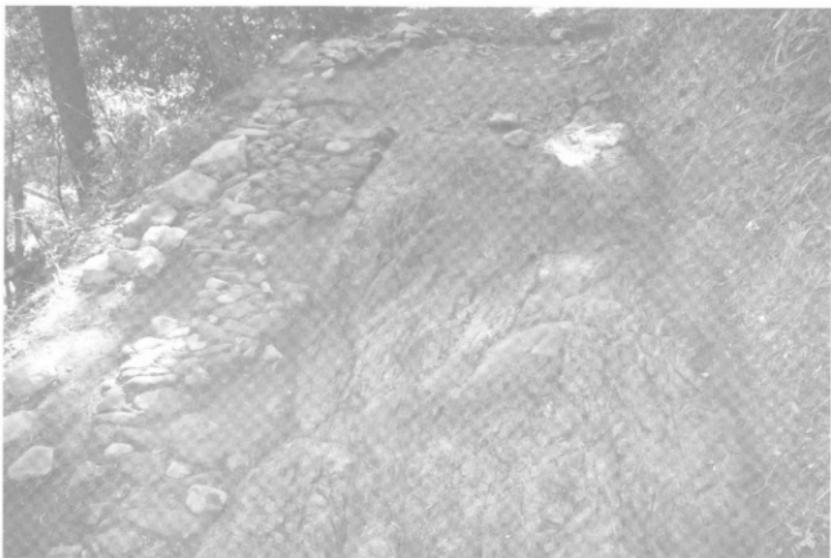
2. 第3調査地点南半（調査後・南から）



1. トレンチ11 土層検出状況 1



2. トレンチ11 土層検出状況 2



1. トレンチ13 完掘状況（北から）



2. 3. トレンチ13 完掘状況（西から・石敷き部分）



1. トレンチ14 完掘状況（北東から）

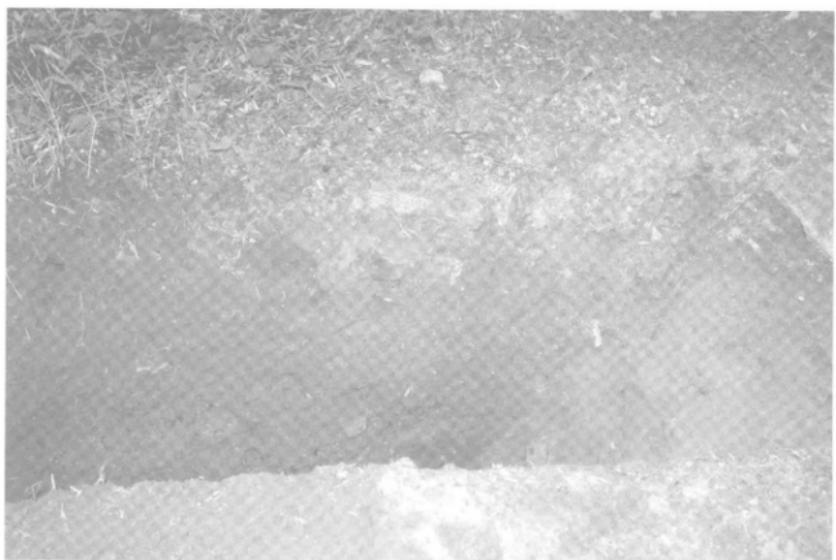


2. トレンチ14 土層検出状況

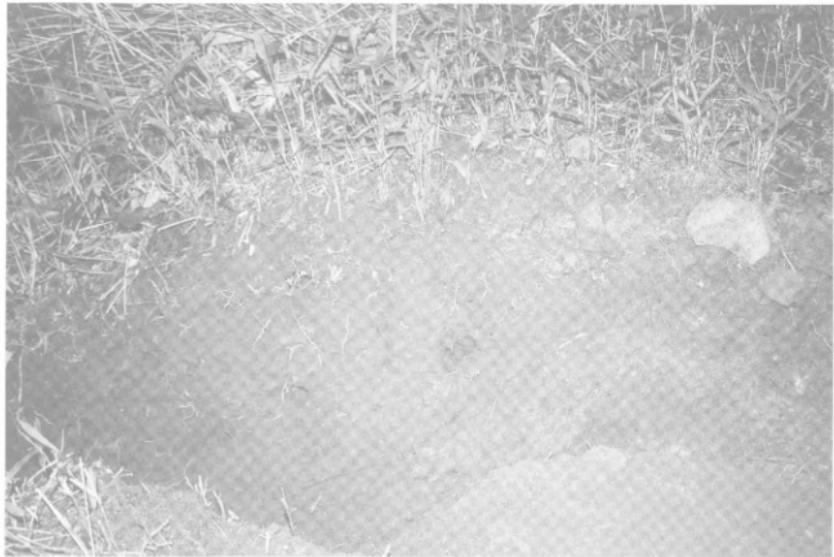
図版22



1. トレンチ15 完掘状況（西から）



2. トレンチ15 土層検出状況



1. トレンチ16 土層検出状況 1



2. トレンチ16 土層検出状況 2